

# 琉球大学学術リポジトリ

## 中国南方集体林区の実態とその特徴

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農学部 公開日: 2008-02-14 キーワード (Ja): 集体林, 南方集体林, 南方集体林区, 農林複合経営, 小規模経営 キーワード (En): Collective forest, Southern Collective forest, Southern Collective forest region, agroforestry management, Small-scale management 作成者: 羅, 攀柱, 篠原, 武夫, 仲間, 勇栄, 行武, 潔, 譚, 益民, Luo, Panzhu, Shinohara, Takeo, Nakama, Yuei, Yukutaka, Kiyoshi, Tan, Yimin メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/3601">http://hdl.handle.net/20.500.12000/3601</a>

## 中国南方集体林区の実態とその特徴

羅攀柱\*・篠原武夫\*\*・仲間勇栄\*\*・行武潔\*\*\*・譚益民\*\*\*\*

Panzhu LUO\*, Takeo SHINOHARA\*\*, Yuei NAKAMA\*\*, Kiyoshi YUKUTAKA\*\*\* and Yimin TAN\*\*\*\*

### The Actual State of the collective Forestry—region and the Characteristic in Southern China

キーワード：集体林 南方集体林 南方集体林区 農林複合経営 小規模経営

**Key words** : Collective forest, Southern Collective forest, Southern Collective forest region, agro-forestry management, Small-scale management

#### Summary

The collective forest region is located in Southeast and South Central China, which distributes in ten provinces and autonomous region and covers over 90% of the local forest. With a rapid decrease of the forest resources of the national forest region in Northeast, Inner Mongolia and Southwest China, which was the major wood production areas conventionally, the collective forest region is blessed with the superiority of natural conditions, and attracts attention as a production base of the wood by establishment of fast-growing and high-yield plantation. However, owing to its natural conditions, formative and present forest and forestry policies, with comparison to the national forest, the collective forest's forest ownership is various and complicated, although easy to be reformed. Another, the different management of the enterprise, the poor forestry management base and the unbalanced development of the regional economy make the farmhouse and forest-house carry out agro-forestry management forcibly. The forestry production structure is not rational and the management is a decentralized and small-scale one. Moreover, the collective forest has to meet the requirement of a variety of public benefit from the forest. Therefore, a different forest and forestry policy from the national forest is demanded for the collective forest.

#### 1 はじめに

中国の森林はその所有権によって国有林と集体林の2

つ所有形態に分けられる。集体林の半分以上は南方集体林区と呼ばれている地域に分布している。1950～80年代までは東北・内モンゴル国有林区と西南国有林区（以下国有林区を略称する）の木材生産量は全国の6割以上を占めていたが、1990年代から東北・内モンゴル国有林区では過伐等により、森林消失や成熟林の減少が生じ森林資源は劣化し、利用可能な森林資源の減少が進み、若齢人工林は増加し、西南国有林区では木材伐採困難等のため、木材生産量は減少した。今日両林区の木材生産量は全国の4割を占め、木材生産地としての位置を低下させている。一方、南方集体林区は熱帯・亜熱帯に位置しており、林木生長に適した気候、土壌等の自然条件に恵まれているため、木材生産量は1950～80年代までの全国の3分の1から、1995年には全国の40%台に上っており、早成豊産用材林の生産基地として注目されている。また南方集体林区における竹材と特用林産物の生産高は中国全体の大半を占め、国の経済建設に大きな役割を果たしている。一方、日本において発表されている中国南方集体林区に関する著書や論文<sup>(1)(2)(3)(4)</sup>では、森林資源と自然条件の面から南方集体林区の実態及びその特徴が説明されているのが殆んどであり、国有林区との比較の面から論じていない。また日本の研究者は南方集体林区と南方集体林の概念を間違えがちである。本文では中国集体林、南方集体林区、南方集体林等の概念を説明し、南方集体林区の実態を解明し、とりわけ南方集体林区を国有林区と比較し、その特徴を明らかにすることを目的とする。

本論文の要旨は2001年10月、日本林学会九州支部大会（九州大学）で発表した。

\*鹿児島大学大学院連合農学研究科（琉球大学） \*\*琉球大学農学部生物生産学科

\*\*\*宮崎大学農学部生物生産学科 \*\*\*\*中国湖南省中南林学院（大学）

琉球大学農学部学術報告 50：101～107(2003)

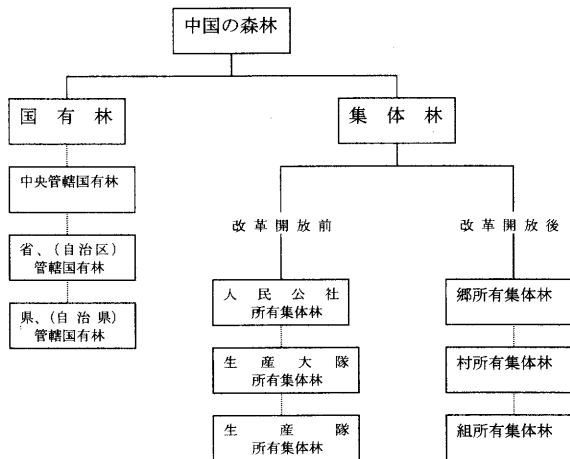
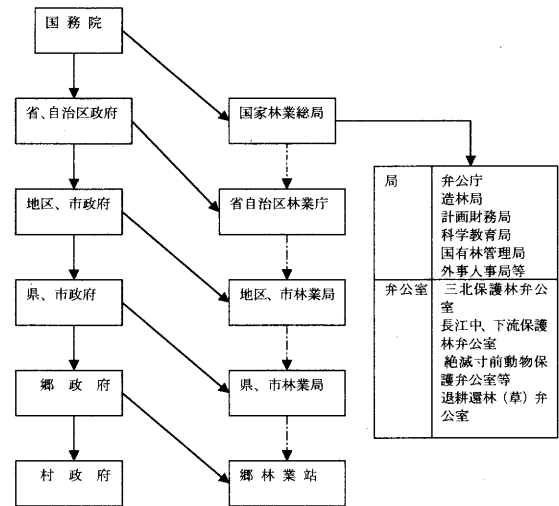


図-1 中国森林の所有制



注：——→直接関係、- - - - -→間接関係

図-2 中国林業行政機関

## 2 集体林、南方集体林区、南方集体林の概念

### 1) 集体林

集体林という言葉は中国語であり、日本語に訳すれば集団林ということになる。集体林とはその土地の所有権が農村に住んでいる住民の集団に所属する森林である。日本の公有林に相当するものと言えよう。現在、集体林は図-1で示すように郷有林、村有林と組有林に区分され、村有林がその大半を占めている。

集体林は社会主義体制下の森林所有制の1つであり、中華人民共和国が成立してから、高級合作社の農村社会主義的改造運動と人民公社運動によって私有林、公有林を集団所有化したものである。その管理組織は図-2で示している。

集体林の経営方式としては、経済改革開放前の人民公社制度では、社隊林場の経営と集団生産隊の統一経営との2つの経営組織がある。即ち、人民公社、生産大隊を単位と

して設立され、林業を専業としての社隊林場と、生産隊を単位として設立され、林業を農業の構成部分とする農業生産隊である。

経済改革開放以後、集体林業と国有林業、個人、会社、集体林業の間の相互連合経営等の合作経済は発展しつつあり、集体林では農家林家に割り当てられた自留山以外、責任山を請負わせる農家林家の家族経営の数はますます増加している。このような多様な経営の変化によって、大部分の集体林が所有権と経営権の統一から所有権と経営権の分離を実現し、農家林家の林業経営の積極性を高め、新しい経営方式を形成している。つまり、それは家族経営、林業専業有能者の大面積請負経営、郷村林場(元の社隊林場)経営、持合株合作経営、国家、集団、個人ならびに会社等の各種類型の連合作経営等の多様な経営である。

第5回全国森林資源調査(1994~1998年)によると、1998

表-1 南方集体林区10省、区における集体林の面積と蓄積(1998年)

単位:万ha、万m<sup>3</sup>

省、区	林業用地面積			立木蓄積			特用経済林面積			竹林面積		
	面積	集体林(%)	国有林(%)	蓄積	集体林(%)	国有林(%)	面積	集体林(%)	国有林(%)	面積	集体林(%)	国有林(%)
湖南	1,174	95.2	4.8	23,147	90.0	10.0	216	90.0	1.0	49	98.7	1.3
湖北	764	92.4	7.6	14,759	81.5	18.5	71	94.2	5.8	13	95.3	4.7
江西	1,045	85.9	14.1	27,696	75.2	24.8	136	94.8	5.2	63	84.7	15.3
安徽	419	92.9	7.1	10,441	89.9	10.1	58	96.6	3.4	25	95.8	4.2
浙江	640	96.6	3.4	12,660	89.4	10.6	110	97.8	2.2	62	99.6	0.4
福建	902	88.4	11.6	41,764	78.8	21.2	103	94.7	5.3	82	96.5	3.5
廣東	1,035	93.9	6.1	21,325	88.3	11.7	98	90.2	9.8	38	98.8	1.2
廣西	1,269	91.1	8.9	31,027	80.7	19.3	161	95.5	4.5	25	92.3	7.7
貴州	741	94.7	5.3	17,022	87.3	12.7	60	94.7	5.3	5	94.2	5.8
海南	170	41.0	59.0	7,281	25.2	74.8	51	33.8	66.2	2	78.2	21.8
合計	8,159	91.0	9.0	207,122	81.1	18.9	1,064	92.8	7.2	364	95.0	5.0

注:①『全国森林資源統計1994-1998年』中国林業総局森林資源管理司 2000年31~42頁より作成。

②広西チワン族自治区以外は省。

③特用経済林面積と竹林面積は林業用地面積に含まれている。



図-3 中国南方集体林区の位置  
注：斜線の部分が集体林区。

年12月現在まで、集体林の森林面積は8,974万ha、蓄積は24億4,644万m<sup>3</sup>で、全国森林総面積1億5,363万ha、総蓄積100億8,564万m<sup>3</sup>に対し、前者は58.4%、後者は32.4%を占める。そのうち人工林面積は2,144万ha、蓄積は6億3,466万m<sup>3</sup>で、全国人工林面積2,914万ha、蓄積10億1,299万m<sup>3</sup>に対し、前者は73.6%、後者は62.7%を占める。また特用経済林（果樹林や油料林等）は1,863万ha、竹林面積393万haで、全国特用経済林2,022万ha、竹林421万haに対し、前者は92.1%、後者は93.3%を占める。

## 2) 南方集体林区

現在、全国の森林は東北・内モンゴル国有林区、西南国有林区と南方集体林区に大別されている。また森林資源が少ない西北国有林区と華北、華東平原林区もある。南方集体林区とは表-1で示すように集団所有する森林面積がその地域森林の割合を大きく占める福建、湖南、湖北、江西、安徽、浙江、広東、広西、貴州、海南等の10省・区である。その位置は図-3で示している。

ここで特に説明したいのは、①海南省が1988年5月広東省から分離・独立して新設され、その集体林の割合は高くないが、歴史的な連続性と管理の便利性を顧慮して集体林区に含まれている。②集体林の特徴から考えると、四川省、雲南省と重慶市の一部の県の集体林面積と蓄積のウエイト

(80%以上)が大きいので、南方集体林区に入れる場合もある。つまり、国の集体林に関する政策はこれらの県にも適用されている。

## 3) 南方集体林

南方集体林とは南方集体林区における集体林である。1998年、南方集体林の森林面積は3,980万ha、森林蓄積は14億2,500万m<sup>3</sup>であり、それぞれ集体林区有林地面積と森林蓄積の89%、79.4%を占めている。また人工林面積と蓄積は1,304万ha、3億7,421万m<sup>3</sup>であり、南方集体林区人工林面積と蓄積の83.8%、71%に達している。特有経済林面積は987万ha、竹林面積は347万haであり、南方集体林区の特有経済林と竹林面積の92.8%、95%を占めている。

## 3 南方集体林区の実態

### 1) 自然概況

南方集体林区は北緯22~33度、東経108~120度、中国の東南、中南部に位置して、熱帯、亜熱帯に属している。年平均気温20~24℃であり、霧の降りない期間は220~350日であり、年降雨量が800~2,000mmである。地形は丘陵地を主とし、山村<sup>⑤</sup>と半山村区県は614個、全国山村県全体756個の81.2%を占め、海拔は普通300~800mである。こ

の地域は自然条件に恵まれて植物が豊富である。森林は広葉杉、馬尾松、モウソウ竹等の人工林と天然針葉と広葉混交二次林を主とし、貴重な樹種も有している。また茶、果物、薬材及びアブラツバキ、アブラギリ、漆木、棕櫚等の特用経済林産物資源は非常に豊富である。貴重動物はパンダ、キンシザル、華南トラ、カモシカとジャコウジカ等がある。

2) 森林資源の概況

南方集体林区の土地面積は1億5,519万ha、全国土面積の16.2%を占めている。南方集体林区の森林資源の変化についてみると表-2に示すように、用材林の面積、蓄積は第3次調査時には減少していたが、森林管理に関する諸規定・規則の強化及び造林優遇政策の制定により、いずれも増加を見せた。また表-3で示すように現在、南方集体林区の林業用地面積と森林面積は全国の3割以上を占めている。特に全国の特用経済林面積と竹林面積において集体林区が圧倒的に占めている。集体林区の森林蓄積は全国の17.7%となり、そのうち用材林蓄積は全国用材林蓄積の20%である。用材林の中の成熟林と過熟林の蓄積は1億6,900万m<sup>3</sup>、全国用材林成熟林と過熟林の蓄積27億4,000万m<sup>3</sup>の6.2%に過ぎない。人工林の面積は1,556万ha（若齢林を含まない）、蓄積が5億3,000万m<sup>3</sup>（特用経済林と竹林は含まない）で、全国平均の人工林面積2,924万haと蓄積10億1,300万m<sup>3</sup>の5

3.4%と52.3%に達している。またこの林区では、針葉樹と広葉樹の面積及び蓄積の比率はそれぞれ68%対32%、56.2%対43.8%であり、森林のha当たりの平均蓄積は40.14m<sup>3</sup>で、全国の78.1m<sup>3</sup>より48.6%低い。林野率は38%で全国16.6%の2倍以上となっている。南方集体林区が東北・内モンゴル国有林区、西南国有林区について3番目の林区である。南方集体林区における無林地面積1,046万haと疎林地・灌木林地の面積948万haを合わせた要造林地は1,994万haとなり、森林面積5,900万haの33.8%となっている。またこの地域の保安林の割合が7.6%と低いが、地域の公益的機能特に河川の保護問題は益々厳しくなっている。

3) 南方集体林区の位置付け

中国建国以後、政府は南方集体林区に林業行政機構を設けると同時に、林業教育、科学研究事業を推進している。また政府は国营林场、社隊林场等の林業経営体を積極的に興し、森林の造成・保育と木材生産のネットワークが形成され、特に国の林業化学製品の重要な産地となっているが、その殆どは国营林業の経営管理方法で行われていた。1979年までに集体林区林業経営に対する総投資額は36億元に達し、木材売り上げから返還している育林基金を含めると45億元に及んでいる。林区道路の新設・修繕は3.8万kmであり、集体林区の国营林场では長期間林業生産と経営の経験を積んだ従業員が50万人ぐらいいおり、この地域だけでなく全国の林業

表-2 中国南方集体林区林種別森林面積と蓄積の推移

単位：万ha、万m<sup>3</sup>

林種	第2次調査		第3次調査		第4次調査		第5次調査	
	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積	面積	蓄積
用材林	2,662	133,674	2,577	114,000	2,934	122,590	3,746	144,378
保安林	181	—	256	15,000	278	16,412	451	24,959
薪炭林	122	—	202	2,000	225	2,126	218	2,991
特殊用途林	10	—	25	3,000	38	4,641	56	7,093
特用経済林	846	—	748	—	866	—	1,065	—
竹林	104	—	299	—	324	—	365	—
合計	3,925	—	4,107	134,000	4,665	145,769	5,901	179,421

注：①中国林業年鑑1949～1986、1989、1994、1999年より作成。

②第2、第3、第4、第5次調査の調査期間はそれぞれ1977～1981、1984～1988、1989～1993、1994～1998年である。

表-3 中国における南方集体林区の森林資源概況（1998年）

単位：万ha、億m<sup>3</sup>

項目	林業用地	森林面積							疎林地	未成林地	灌木	苗圃	立木蓄積	森林蓄積	森林面積のうち		
		合計	用材林	保安林	薪炭林	特殊用途林	特用経済林	竹林							用材林蓄積	保安林蓄積	薪炭林蓄積
集体林区	8,158	5,900	3,746	451	218	56	1,064	365	214	262	734	2.3	20.7	17.9	14.4	2.5	0.30
全国	25,705	15,363	12,920	2,138	445	397	2,022	421	720	462	3,445	12.3	113.1	100.9	72.1	21.9	0.88
集体林区の割合(%)	31.7	38.4	29.0	21.1	49.0	14.1	52.6	86.7	29.7	56.7	21.3	18.7	18.3	17.7	20.0	11.4	34.1

注：①『全国森林資源統計1994-1998年』中国林業総局森林資源管理司 2000年34～43頁より作成。

②林業用地は立木蓄積、森林面積は森林蓄積と対応している。

③全国には中国全土の国有林と集体林が含まれる。

生産の主力労働力でもある。また森林蓄積が300万m<sup>3</sup>以上あり、158個の林業重点県<sup>⑥</sup>が重点的に整備され、集体林区の林業経営が促進されている。1980年代に本格化する経済改革開放によって、林業生産請負制が導入され、国からの林業投資はずいぶん減少している。そのため、政府は南方集体林区に「林業を主とし、多角経営を行い、換金性の早い事業に頼って林業を促進し、両者のバランスをとって共同して発展させる」という経営方針を打ち出し、集体林区は国のサポートを受けながら自力発展の道を歩んでいる。

集体林区は中国の重要な林業生産基地であり、国、地域の経済、人々の生活に多くの木材と林産品を提供している。表-4で示すように、1999年には集体林区の早成豊産用材林の造林が全国の27.3%でやや減少しているが、1999年までの封山育林<sup>⑦</sup>面積は全国の半分以上を占めている。木材生産、製材、木質ボード等の生産量は全国の40%台に達しており、特に油茶をはじめとする特用林産物の生産高は全国の大半を占めている。

南方集体林区の開発の歴史は古く、人口稠密、経済活動が活発なこともあって、天然林は一部分の地域（湖北省の神農架林区）に残っているだけで、多くは伐採が進んでいる。現在、この林区の大部分は人工造林、封山育林による二次林や人工林であり、国有林区のような天然林材の大径木を全国へ供給できないが、地元農家への建築・家具の用材と薪炭材等の供給を主力として、一定量の雑木の中・小径木を全国へ供給し、木材供給においては重要な位置を占めてきた。1999年の集体林区の林業総生産は125億2,000万円で、全国林業総生産346億元の36.2%を占めている。

#### 4 南方集体林区の特徴

南方集体林区の特徴は以下の通りである。

##### 1) 所有権が多様、複雑で、変革しやすい山林

南方集体林区は歴史上はほとんど私有林であった。中華人民共和国建国前、山林の大部分は大地主、大領主、大官僚が所有し、農民は彼らの林地を賃借して林業を営み生計を立てていた。中華人民共和国建国後、土地改革によって農民は土地を分配され、南方集体林区の林業は依然として基本的に私有制の私営林業となった。1950年代中期からの農業合作化、人民公社運動によって全ての農民の私有地は

集団の財産となって行政（地方政府）に従属し、「政社合一」（行政と農業経営組織の一体化）の地方公有制となった。経済改革開放後、人民公社が解体され、南方集体林区における国有林はそのままの形で存続しているが、集体林は郷有林、村有林、組有林に変わり、多重性を有している。国有林区の国有林では基本的に国家（中央）直轄国有林と地方（省、地区、県）管轄国有林からなる。つまり、両者とも社会的所有であるが、その森林が異なる社会メンバーによって所有されており、国有林は全国民の所有、集体林は地域住民の所有である。

集体林区の集体林業は千年以上の経営の歴史があり、「郷規民約」等の旧来の慣行で管理利用されていたため、長期間閉鎖的な環境の中で自給自足の経営であった。中華人民共和国建国以後、土地改革、互助組、初級合作社、高級合作社等の農村社会主義的な改造と人民公社運動があつて、集体林の山林所有権はしばしば変化し、非常に混乱して今日にも及んでいるが、国有林区は相対的に安定している。一方、経済改革開放において山林の所有権と経営権の分離による各戸請負制は集団所有制の下で行われていたのである。今後、改革開放の深化に従って、集団所有制は国有制より依然として改革の先駆けとなるであろう。

##### 2) 形態の違う経営事業

国有林区の国营林業は企業経営方式を導入し、利益を獲得することを経営目標とし、その多くは原生林を対象に大面積伐採、大面積更新造林を行ってきた。国营林場は林業専業経営だけでなく、設置の当初は、未開の土地であるため、従業員の生活、福祉等の面までも全面的に整備し維持することが必要であった。そこで国有林区は国によって創設された「林業社会」と言われている。一方、集体林区では古くから農民を主体とし、農業、林業、牧畜業、副業、漁業の経営と生活体制が形成された。林業経営ではわずかの国营林場と郷村（社隊）林場の経営管理のみが企業経営方式で行われていたが、その大半が従来からの農林複合経営によって小面積人工広葉杉用材林の造林と大面積の封山育林を行っていた<sup>⑧</sup>。南方集体林区は「社会林業」と呼ばれている。また南方集体林区の経営事業は殆んど農業、林業と牧畜業との兼業である。国有林区の経営事業は専門化している。農業、林業と牧畜業がバランスをとって発展することは一国の経済にとって重要であるが、1つの農家あるいは

表-4 1999年における南方集体林区の林業生産状況

項目	人工造林	早成造林	封山育林	木材	竹材	製材	木質ボード	油茶	油桐	生漆	松脂	タケノコ
単位	万ha	万ha	万ha	万m <sup>3</sup>	万本	万m <sup>3</sup>	万m <sup>3</sup>	万t	万t	万t	万t	万t
集体林区	73.7	7.5	1,748	2,300	46,475	664	675	77.1	27.9	0.18	51.3	29.6
全国	490.1	27.5	3,479	5,237	53,921	1,586	1,503	79.3	44.8	0.5	57.2	31.1
集体林区の割合(%)	15.0	27.3	50.2	4.39	86.2	41.9	44.9	97.2	62.3	36.0	89.7	95.2

注：①『中国林業年鑑2000年』中国林業出版社2001年、209～222頁より作成。

②早成造林は人工造林に含まれている。

③封山育林は1999年までの面積である。

④油茶と油桐は和名でアブラツバキとアブラギリの実である。

⑤全国には中国全土の国有林と集体林が含まれる。

小規模の経営者にとっては農業、林業と牧畜業の兼業は自給型あるいは半自給型である。現在、南方集体林区の一部の地域は山が多く食糧が少ないが、労働力が多く収入が少ない。現実には農家はこのような兼業状況から抜け出せない。山村の発展が制限される時或いは困難に遭う時、農家林家は必ず農業、牧畜業を重視して林業を軽視し、農家林家は自力で林業を営み難い。

### 3) 脆弱な林業経営基盤

国有林区の国有林は建国前の国有林と、建国後の土地改革によって大地主、大領主、大官僚山主の私有山林が無償没収されたものからなる。しかし、集体林区の集体林は地主、富農等の土地が無償没収され又は有償徴収されて農民に分配された私有山林と、農民の自己所有している私有山林が、初級合作社、農業合作社、高級合作社等の社会主義的な改造運動と人民公社運動によって集団所有になっているものからなる。国有林区の大部分は原生林が多く、ha当たりの蓄積（東北・内モンゴル国有林区は82.7m<sup>3</sup>/ha、西南国有林区は129m<sup>3</sup>/ha）が高く、交通便利なところ（西南国有林区の一部を除く）に集中し大規模であり、経営に非常に有利であるが、集体林区は農家に近くて古くからよく利用されている二次林であり、森林資源、立地条件がわりと良くない。

### 4) 豊富な労働力、アンバランスな地域経済発展

1999年南方集体林区の総人口は4億5,441万人で、人口密度は271人/km<sup>2</sup>であるが、東北・内モンゴル国有林区、西南国有林区はそれぞれ117人/km<sup>2</sup>と135人/km<sup>2</sup>である。南方集体林区の年齢構成別人口は0~14才では28.9%、15~64才では64.8%、65才以上は6.3%であるが、東北・内モンゴル国有林区では23.7%、71.2%と5.1%で、西南国有林区では26.5%、67.2%と6.3%である。農業と林業の各戸請負制の実行によって、剰余労働力が出るようになってきた。1990年の1年間南方集体林区では省外からの移入数から省外への移出数を差し引いた純流出人口数は約57万人に達している。しかし、この地域の発展はアンバランスであり、自然、社会・経済条件が発展の基盤となるが、国有林区はバランスをとって順調に発展しており、発展のテンポが国の投資、森林面積の規模と企画等によって決められる。1987年南方集体林の国からの造林投資額は81.4元/haで、国有林区の造林投資額389元/haの5分の1にすぎない。

南方集体林は南方山村地帯と丘陵地帯に集中し、交通不便、文化教育の遅れと伝統的な家族経営方式であるため、各地の経済発展は非常にアンバランスである。一般的に、交通便利の沿海地域と都市に近い地域は経済が発展し、技術レベルが高いため、山村の開発が進んでいるが、内陸の省（自治区）の交通不便と都市に遠い地域及び少数民族の住居地では、林業がずいぶん遅れている。1981年の改革開放初期には沿海地域の広東省はムー（1ムーは0.067ha）当たりの山地の平均収入が4.7元であるが、山村地域と少数民族が多い貴州省では1.55元にすぎず、格差は3倍であり、木材価格で計算すれば6倍に達する。なお、森林旅行（森林レクリエーション）、郷鎮企業等の全ての収益を計算すれ

ば両地域の格差はもっと大きい<sup>9)</sup>。経済改革開放の進展に伴ってこの格差がもっと拡大し、現在10~20倍にも達していると言われている。

### 5) 林業内部構造における問題点

南方集体林区と国有林区の林業はいずれも生産構造が非生産的である。南方集体林区の林業の整備と生産構造の調整が大事であるが、国有林区の林業は経営方針を正すことを優先すべきである。集体林区における林業生産構造の問題点は1998年の統計で見れば以下の通りである。①林種構造がアンバランスである。南方集体林区では、用材林と特用経済林の面積を合わせた割合が81.5%と大きい、薪炭林が3.7%、特殊用途林が0.95%、保安林が7.6%と小さい。②樹種の構造がアンバランスである。1950~80年代、造林面積拡大と木材収入を追及するため、単一の広葉杉、松等の針葉樹造林が提唱され、人工林造林面積の大半を占め、地元の優良樹種と他の機能をもつ樹種、とくに、広葉樹を排斥した。③林齢構造がアンバランスである。すなわち、人工林の中には壮、若齢林が87.4%と多く、天然林の中には成熟林が6.7%と少ない。④林地構造が非生産的である。つまり、造林に適する荒廃林地を含む無林地が1,046万haで、林業用地面積の12.8%を占め、有林地の利用率が低い。⑤林産品において木材及びその製材品がそれぞれ2,300万m<sup>3</sup>と664万m<sup>3</sup>と多く、合板、パーティクルボードとファイバーボードを含む木材加工品が675万m<sup>3</sup>と少なく木材生産品の総生産高の30%に過ぎない。

### 6) 零細・小規模経営

南方集体林区の林業は零細・小規模経営であり、適時適地に林業を営まなければならないが、国有林区の林業は統一経営基準を立て、統一経営を行うことができる。零細・小規模経営は集団所有制によって決められている。国有林区の基本経営単位である林業局は数万haあるいは数十万haの規模に対して、集体林区の郷、村は数十ha或いは数百haの林地しか有していない。各戸請負制と連合経営制を導入してからは、経営者が所有している林地は一層両極化し、家族経営の山林面積は数haに過ぎないのに対して、大規模な連合経営は数千haにも達している。南方集体林区では国の経営方針とは必ずしも一致していないから、統一企画、統一技術標準と統一工程規程を実施し難い。

### 7) 森林の多種公益機能のニーズ

南方集体林区の林業へのニーズは複雑であり、自らのニーズから社会市場ニーズへ移行しなければならないが、国有林区の林業へのニーズはわりと単一であり、社会市場ニーズだけ満たせばよい。南方集体林区の森林の大部分は整備途中の二次林であり、これらの森林は国の経済の需要を満たす以外に、主に農家林家自身の木材需要と社会の森林への多種公益機能が要求されている。つまり、商品経済が発達していない自給型と半自給型の時期では、農用材、薪炭材と特用林産物のニーズがよく要求されているが、商品市場経済の発展期では、建築材、森林の水源涵養と土砂防止等の公益機能のニーズが主に求められている。

## 8) 優れた自然条件

国有林区は西南国有林区を除いて大部分が北部に集中しているが、南方集体林区は熱帯・亜熱帯に位置し、河川、湖、池が多く分布し、水、気温等の自然条件が良く気候は林木の成長に適し、造林木の活着に有利である。また林木の成長が早くて立木の年成長率が5.2%で、全国の年平均3.5%より高い。優勢樹の年成長量が5~6 m<sup>3</sup>/haで、早成豊産樹種は7~10 m<sup>3</sup>/ha、生産の中心的地域では12~15 m<sup>3</sup>/haにも達している。次に伐期が短い。一般的に集体林区の人工林は20~30年で伐採利用可能であるが、東北の国有林と比べて伐期は半分以上に短縮されている。自然条件は人工造林、天然更新造林、航空機による播種造林と封山育林等の多種の造林方式によって森林資源を増やすことに有利な条件を有している。

## 5 むすび

集体林、南方集体林区、南方集体林は異なる意味をもっている。集体林と南方集体林は森林所有の概念であるが、その範囲が違う。南方集体林区は1つの地理的な概念であり、その中には国有林と集体林がある。またその内容から見れば、集体林は中国森林の一構成部分であり、南方集体林は集体林の主体である。

南方集体林区は中国林業の発展に大きな役割を果たしている。しかし、南方集体林区ではその自然条件、成立と現行の森林・林業政策等の原因で、国有林区と比べて、山林所有権が多様で複雑であり、変革しやすい。また経営事業の形態も違い、林業経営基盤が弱くて地域経済発展のアンバランスが生じ、農家林家が農業、林業、牧畜業等の農林複合経営をせざるを得ない。しかも、林業生産構造は非生産的であり、経営は零細・小規模経営で、森林の多種公益機能へのニーズ等がいつそう求められており、国有林区と違う森林・林業政策が要求されている。

南方集体林区の林業を進展させるためには、同地域内の人口が多く、農地が少なく、文化教育が遅れ、交通が不便等の不利な要素を配慮すべきであろう。またできるだけ経営条件を整備し、商品流通を改善し、林業経営に有利な優れた自然条件を利用し、その林地及び森林資源の有効利用を促進することが大切である。なお、国有林の設備、技術と管理経験等の助けを借り、国有林との林業経営、林産品流通の連携強化を図る必要がある。とりわけ、経済改革開放の深化に伴い、林業専業有能者の大面積請負経営、株式合作経営及び集団、個人並びに会社等と集体林との各種の連合経営は林業経営に応じた経

営規模ができ、各経営者の林業経営意欲を向上させ、集体林区の林業の発展を促進させるであろう。

## 注、引用及び参考文献

- (1) 榮佩珠「中国の集体林」『森林組合』No213, 1988年, 13~16頁。
- (2) 陳大夫『中国林業発展と市場経済』, 日本林業調査会, 1998年, 25~26頁。
- (3) 吳鉄雄『中国南部林区における林業生産構造に関する研究』, 宇都宮大学農学部演習林報告第35号, 1999年, 19~27頁。
- (4) 崔麗華『中国林業・その変貌の行方』, 日本林業調査会, 2000年, 19~23頁。
- (5) 中国の農林統計に用いる地域区分によれば、山村とは山(海拔200m以上かつ傾斜度15度以上)の面積が全土地面積の70%以上を占める地域である。
- (6) 林業重点県とは、南方集体林区における森林面積約20万ha、蓄積約800万m<sup>3</sup>、木材年間生産量が約100万m<sup>3</sup>以上の主な木材生産県である。
- (7) 封山育林とは天然更新能力を備えている疎林地、灌木林地、伐採跡地、山火事跡地、荒廃裸地等の土地において開墾、薪の採取、放牧等の森林再生妨害行為を制限することにより、天然力を活用して森林を維持造成することである。封山育林は封山育林と封山護林とに分けられている。一般的に南方地域では封山後からの3~5年、北方地域では5~7年は封山育林というが、後の主伐までの期間は封山護林(封山して成林を保護する)と呼ぶ。
- (8) 雍文濤等編『林業分工論』, 中国林業出版社, 1992年, 266頁。
- (9) 陳詩嫻『林業経済と企業管理』, 中南林学院1987年, 126頁。
- (10) 中華人民共和国林業部『中国林業年鑑1994年』, 中国林業出版社, 1995年, 85~95頁。
- (11) 張広智ら『南方集体林経済論』, 中国林業出版社, 1992年, 1~10頁。
- (12) 中華人民共和国林業総局『中国林業年鑑1999年』, 中国林業出版社, 2001年, 20~223頁。
- (13) 中華人民共和国林業総局『全国森林資源統計資料1994~1998年』, 2001年, 21~43頁。
- (14) 李克亮ら『林業経営方式』, 経済科学出版社, 1987年, 47~55頁。